

## 役員視察研修で 日田杉資料館を訪問しました

平成29年11月17日、役員視察研修で日本の三大林業地・大分県日田市の日田杉資料館を視察し、日田木材協同組合の担当者から日田杉についての説明をうかがいました。また台風による林業災害・水害被害地の状況も視察し、林業復興を願うと共に、御見舞い申し上げます。



日田杉資料館は、全国でも珍しい木の資料館。館内には、樹齢数百年の銘木や杉の品種の展示をはじめ、機械化される前に使われていた製材・伐採の道具、大工道具や継手、仕口などを展示。日田の林業の歴史が始まった時代から、木材産業に携わってきた人々の姿と共に、林業における変遷や様式などを学ぶことができる。

## 要らなくなった 山仕事の道具ありませんか？

ご家庭で不要となった林業の道具で、使用可能と思われるものがありましたら、一品だけでも無料で回収にうかがいます。「車庫に置きっぱなしで、処分したいけど、重たくてゴミに出せない」など、お困りでしたら、当組合までご一報ください。多少のメンテナンスで使用可能であれば、眠らせておくのはもったいない！ぜひ現場で活用させていただきます。



チェーンソー・集材機・ひっぱりだこ・チルホール・滑車・とび・ワイヤーカッターなど林業の道具なら何でも。※回収不可能なものもありますので、その節はご容赦ください。

# 森林組合だより

平成29年12月  
Vol.8

豊根森林組合



県からの委託業務として、豊根村下黒川字松ノ平地内の民有林で架線集材(新型タワーヤード)による主伐・獣害対策・再造林の実証事業を実施した。

## とよね木サイクルセンター

### 豊根産材を使用した空き家のリノベーション

今年度も当センターで製材・加工した豊根産材を様々な施設で活用していただきました。中でも、木の温もりが感じられると好評をいただいているのが、坂宇場字首良地内の空き家を改修した、地域おこし協力隊の拠点「チャレンジラボ空の家」。納品した床板と壁板はすべて無節の杉無垢材です。



空の家では地域おこし協力隊が「月イチ夜会」などのイベントを開催。参加された際には、ぜひ豊根産材に触れてみて。

### 間伐材をお売りください

当センターでの買取価格は下記のとおりです。

●規格・買取価格(杉・桧4m/m<sup>3</sup>) 平成29年12月

等級(主な用途)	金額	仕分基準
1本買い(杭・横木)	250～470円	～14cm
C材(チップ用材)	3,000円	割れ、曲がり、虫食い等
BC材(土木・合板用材)	4,800円	節、黒芯、曲がり
B材(土木・集成材用)	6,000円	直材(14～20cm) 60年生以下、軽微な曲り
AB材(建築用材)	8,000円	70年生以下、直材(22cm～)
A材(内装材)	11,000円	70年生以上、元玉・直材
注文材	市場価格以上	—

※金額は、センター持ち込みm<sup>3</sup>当りの税抜金額です。※腐りはお断りさせていただきます。※桧のA材・AB材の金額は概ね上記の2割増し程度です。

## 新たな技術で、 低コスト林業を推進。

山林所有者への利益還元のため

いかに安全性を保ちつつ

省力化・効率化を図るか――

林業の新たな技術の導入によって、

その実現を目指します。



上の写真はドローン(無人航空機)を用いて現場の上空から撮影。

山や木のことなら、まずは森林組合にご相談ください。

Tel.0536-85-1014 Fax.0536-85-1134 (午前8時～午後5時/平日のみ)

発行：豊根森林組合 〒449-0403 愛知県北設楽郡豊根村下黒川字蕨平3番地 TEL.0536-85-1014

## 組合長あいさつ

代表理事組合長 村松 久

アベノミクスも5年目となり株価も25年ぶりに高値を更新しましたが、木材価格は私が組合長就任時以来5年半、杉並材で㎡あたり12,000円前後と停滞したままです。林業関係者のモチベーションの低下が心配されます。

前回、本紙号外でお知らせしたように愛知県が全国に先駆けて実施している「循環型林業推進事業」は、当組合では実証事業を含め3年目となり、8施業地で皆伐再生林に取り組んでまいりました。今まで皆伐には補助金が適用されませんでしたが、現在では各種補助事業によって主伐のみならず獣害防止ネット設置や花粉症対策苗木等の植栽にも補助金が適用されますので、樹種変更も含めてご利用いただければと思います。詳細はお問い合わせください。

国による「森林環境税(仮称)」が、平成29年度税制改正大綱を経て平成30年度税制改正において結論を得ようとしています。

自民党の税制調査会の案によると、住民税支払者を対象に1人1,000円を徴収後、自治体に分配する仕組みで、2024年度から導入する方向で調整を進めるそうです。国土保全、CO2排出量削減のために必要な財源であり、林業関係者としても期待するところ大であります。しかし、現在県単独で実施している環境税による「あいち森と緑づくり森林整備事業」が来年度で2期目が終了するため、県の事業の継続がどうなるのか？ 国の事業との整合性はどうするのか？ 特に二重課税回避はどのようになされるのか？ 未解決の点を多々残しています。

次に、当組合では森林資源の循環利用を促進するために来年度、国・県・村・基金からの助成もいただいて林業機械をセットで導入する計画です。また、機械導入に先立って人材確保が必要です。同封チラシにありますように技術員(主に測量)を何名か募集しています。未経験者で構いません。男女を問わず関心のある方、ぜひ応募してください。



## ドローンを導入、上空からも山林調査ができるようになりました

組合では作業省力化のため、ドローン(無人航空機)を導入しました。4Kカメラが搭載されており、高精細な映像を手元のタブレット端末で確認しながら操縦できます。

〈獣害防止柵の点検〉

従来は作業者が獣害防止柵の周囲をすべて踏査し修繕していましたが、上空から見回することで修繕箇所を事前に把握ができ、重い資材を無駄に持ち歩く手間が省けます。



〈架線作業におけるリードロープ架設〉

従来の人力による運搬と比較し、作業時間の大幅な短縮に繋がります。8月には村内の皆伐地にて使用し、150m先の先柱まで1~2分ほどで作業索を張るためのリードロープを運搬しました。(写真下)

〈各種調査〉

今後は森林調査や人が近づけないような風雪害地の調査などにも利用していく予定です。



## この村の豊かな森を守っていくのが、僕らの仕事です

昨年末から今春にかけて、現場職員に3名の新人が加わりました。将来の豊根の林業を担う者として、調査・測量・間伐・植栽など多岐にわたる仕事に日々取り組んでいます。

初めまして、白石肇(しらいし・はじめ)と申します。尾張旭市からやって参りました。山の仕事は全く経験がありませんが、永くこの仕事を続けられるように安全第一で、山と山主さんのために努力していきます。よろしくお願いたします。



昨年11月から、豊根森林組合で働かせてもらっている小柳津正史(おやいづ・まさし)です。仕事も今までとは違う職種で、住居も豊根に移したので、すべてが新しい生活になりました。慣れない事ばかりですが、一生懸命頑張っていきたいです。



村内三沢出身の宇治誠也(うじ・ともなり)です。初めての就職先なので、職場での言葉遣いに始まり、森林のこと以外にも覚えるべきことが沢山です。自分なりに工夫したり、先輩のアドバイスを聞いたりして、充実した1日を過ごせるよう頑張ります。



●職員募集中! 組合では現在、職員(技術員)を募集しています。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

# 森林資源の循環利用を地域に定着させるために

## あたらしい技術を学び、採算性を高める

林業は、森林の多面的な機能(地球温暖化の防止・国土の保全・水源のかん養等)の発揮に重要な役割を果たしているとともに、過疎化や高齢化が急速に進む地域において雇用の確保を通じてその振興に貢献しています。今後とも林業が、これらの役割を果たしていくためには、国や県が推進している循環型林業(伐る・使う→植える→育てる)を継続し、地域に定着していく必要があります。

当組合でも県の普及指導員の指導のもと、新たな技術を積極的に学び、安全性を確保しながら、主伐の生産性向上や造林の低コスト化のための取り組みを実践しています。



タワーヤーダが全木集材し、これをハーベスタが掴んで造材する。

## 県からの委託で、循環型林業技術実証事業を実施しました (新型タワーヤーダによる架線集材の実証)

一昨年(平成27年度)から始まった豊根村での循環型林業への取り組みは、実証事業を含めて2年間で村有林3か所と民有林4か所の計7か所で実施されました。[\*1]

3年目となる今年は、愛知県からの委託業務として下黒川字松ノ平地内の民有林で、新たな架線系木材生産による主伐・獣害対策・再生林を実施しました。伐倒は従来通りのチェーンソーで、集材を新型クローラー式タワーヤーダ(TY-U5C/愛知県林業振興基金保有)、造材をハーベスタ(WOODY50)で行うという木材生産システムです。労働生産性の目標は9.5㎡/人日におかれまして。[\*2]

タワーヤーダとは、簡単に架線集材できる人工支柱を装備した移動可能な集材機で、特徴として急峻な地形での作業に向いていること、架設・撤去が比較的容易であること等があげられます。今回の機種では集材距離が最大約500m、横取り最大約100mと広範囲の集材が可能で、過去に行った主伐作業は、いずれも建設機械に集材用立インチをつけたスイングヤーダによる集材でしたが、ほとんどの山林が急峻な地形であるこの地域の場合、集材範囲が広く十分なパワーを持つ架線集材が、より高い生産性を有すると見込まれます。[\*3]

また、9月初めに熊本県の株式会社泉林業の社員と豊田森林組合の職員を講師にタワーヤーダ索張り等の研修も行われました。県下の事業体などから延べ約100名の参加があり、タワーヤーダの設置・索張り・操作実習等の技術を身に付けました。

\*1 循環型林業を行った村有林3か所での収支状況が「広報とよね No.565」(発行:豊根村役場地域振興課)の平成29年11月号に掲載されました。豊根村の公式ホームページ(<http://www.vill.toyone.aichi.jp/>)上のバックナンバーでもご覧いただけます。

\*2 平成27年度に村有林で実施した主伐のスイングヤーダによる集材での生産性の実証結果は8.1㎡/人日でした。

\*3 今回の実証結果は、県によって現在とりまとめ作業中です。

**【事業概要】**

施業面積:1.74ha

- 伐採……………杉・桧/80~90年生  
搬出材積見込み900㎡
- 獣害防止柵……………外周:ステンレス入りネット約640m  
中仕切り:ポリエチレンネット約110m
- 植栽……………少花粉杉1,950本・桧2,400本  
計4,350本(いずれもコンテナ苗)

※図はイメージです。



獣害防止柵(外周を囲むステンレス入りネット)を設置中の皆伐地

コンテナ苗は、従来の裸苗と比較して植え付け作業にかかる手間が少ない。